

JASDAQ

証券コード: 7963

平成22年12月期 第2四半期決算説明資料

Clean, Health, Safety



興研株式会社

平成22年 9月 3日

平成22年12月期 第2四半期決算概要

営業の経過及び成果

当第2四半期累計期間（平成22年1月1日～6月30日）のわが国経済は、全般的には回復の兆しが見え始めたものの、安全衛生保護具業界の業績回復を牽引する設備投資や雇用の情勢は依然として厳しい状況で推移しました。

こうした経営環境の中、マスク関連事業部門においては、石綿に関する法改正によって昨年度大きく売上を伸ばした**電動ファン付き呼吸用保護具**が市場に行き渡ったことから、当期間の主な需要が交換用フィルターのみにとなったことによる売上減に加え、産業用マスクの主力顧客である製造業の生産拠点の海外移転等の影響もあり、売上高は30億67百万円（前年同期間比9.0%減）となりました。

環境関連事業部門においては、ホルムアルデヒド対策の法制化による医療機関での**換気装置**の駆け込み需要が昨年ピークを向かえたことから、その反動で前年同期間に比べ3億84百万円減少し、売上高は3億8百万円（前年同期間比55.9%減）となりました。

なお、当事業部門の将来の核とすべき製品**オープンクリーンシステム「KOACH（コーチ）」**は、販売網の整備と展示会等で数多く寄せられた実地試用の依頼に対応した受注活動を実践するとともに、顧客の様々な要望に応えるため、新製品の投入並びに製品ラインナップの充実を図っている段階であります。

以上の結果、両事業部門を合わせた当第2四半期累計期間の売上高は、33億76百万円（前年同期間比17.1%減）となりました。

利益につきましては、売上高が減少する中、昨年度の感染対策用マスクの緊急増産による高い原価水準が通常に戻ったことに加え、生産効率の向上や販売費及び一般管理費の削減に努めた結果、営業利益2億81百万円（前年同期間比29.1%減）、経常利益2億23百万円（前年同期間比27.6%減）、四半期純利益1億5百万円（前年同期間比41.6%減）となり、期初予想を若干上回りました。



電動ファン付き呼吸用保護具



ホルムアルデヒド
対策用換気装置

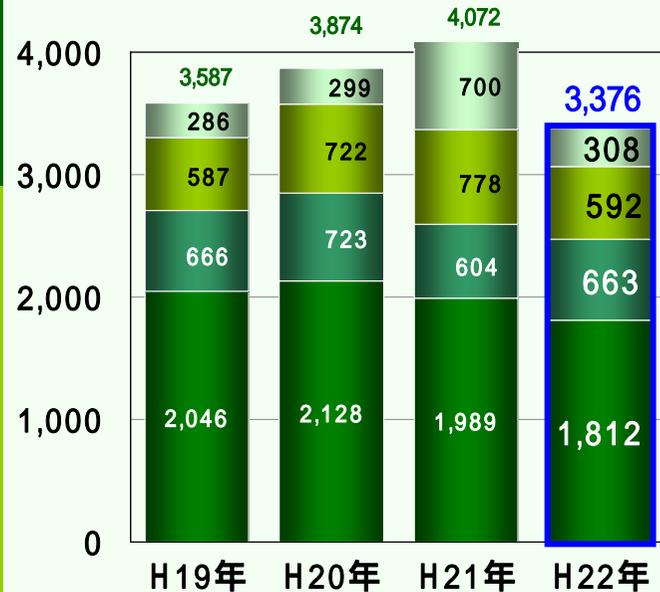


オープンクリーンシステム
「KOACH」

売上高・売上構成比の推移

(百万円未満の端数切り捨て)

(百万円)

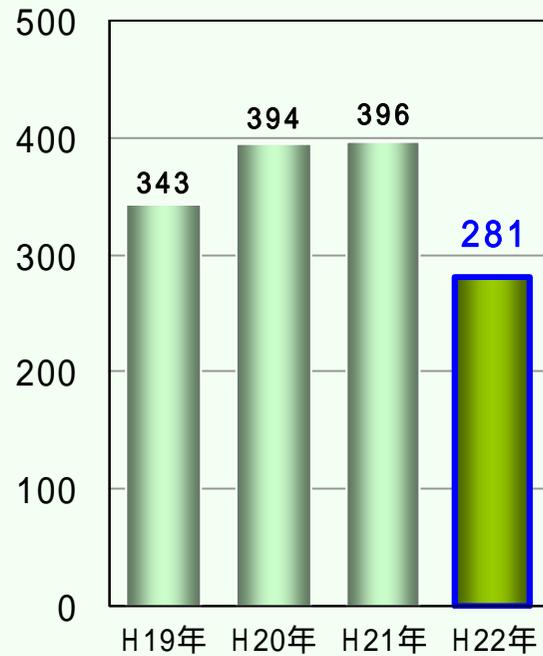


■ 環境改善工事・機器	ホルムアルデヒドの法制化による医療機関での換気装置の駆け込み需要が昨年ピークを向かえたことから、その反動で売上減となりました。
■ 防じんマスク・防毒マスク関連その他製品	石綿に関する法改正によって昨年度大きく売上を伸ばした電動ファン付き呼吸用保護具が市場に行き渡ったことから、当期の主な需要が交換用フィルターのみとなり売上が減少しました。
■ 防毒マスク	自動車関連の業績回復にともない、需要が伸びました。
■ 防じんマスク	製造業の生産拠点の海外移転等の影響を受ける形となりました。

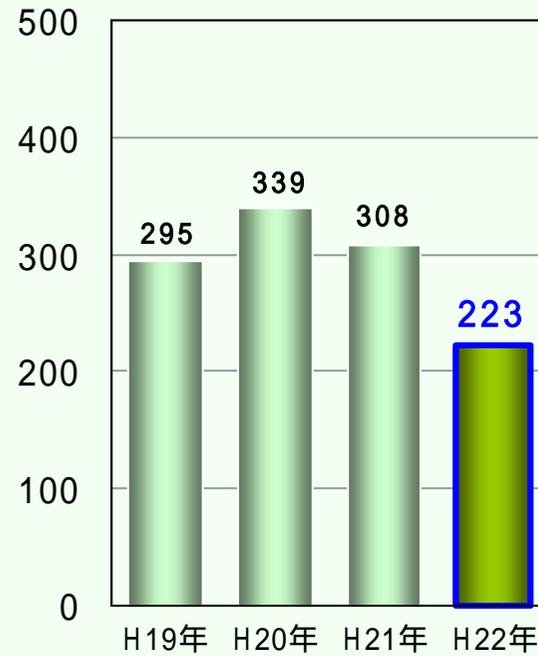
品目区分	平成19年		平成20年		平成21年		平成22年	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率
■ 環境改善工事・機器	286	8.0%	299	7.7%	700	17.2%	308	9.1%
■ 防じんマスク・防毒マスク関連その他製品	587	16.4%	722	18.6%	778	19.1%	592	17.5%
■ 防毒マスク	666	18.6%	723	18.7%	604	14.8%	663	19.7%
■ 防じんマスク	2,046	57.0%	2,128	54.9%	1,989	48.9%	1,812	53.7%
合計	3,587	100.0%	3,874	100.0%	4,072	100.0%	3,376	100.0%

営業利益・経常利益・四半期純利益の推移

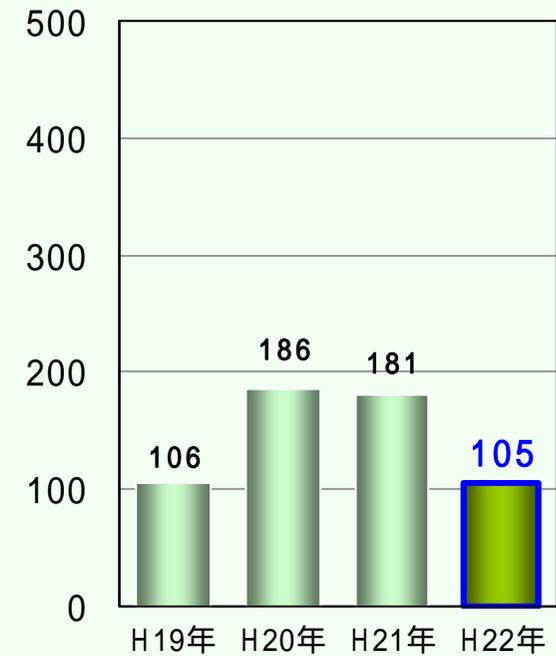
(百万円) **営業利益**



(百万円) **経常利益**



(百万円) **四半期純利益**



(百万円未満の端数切り捨て)

主要な経営指標等の推移

(千円未満の端数切り捨て)

区分	第45期 平成19年12月期 第2四半期	第46期 平成20年12月期 第2四半期	第47期 平成21年12月期 第2四半期	第48期 平成22年12月期 第2四半期
売上高(千円)	3,587,229	3,874,967	4,072,480	3,376,727
営業利益(千円)	343,288	394,707	396,642	281,138
経常利益(千円)	295,633	339,282	308,928	223,628
四半期純利益(千円)	106,801	186,759	181,529	105,953
1株当たり四半期純利益	21円 15銭	36円 97銭	35円 89銭	20円 95銭
総資産(千円)	15,155,371	15,770,490	16,633,285	15,072,921
純資産(千円)	7,316,168	7,530,769	7,682,538	7,727,631
自己資本比率	48.2%	47.6%	46.0%	51.0%
1株当たり純資産	1,448円 57銭	1,485円 40銭	1,511円 36銭	1,519円 92銭

クリーンビジネスへの本格的参入に備えました

～ オープンクリーンシステム「KOACH」シリーズの製品ラインナップを拡充～

当社は平成20年に、開放式クリーンベンチ「オープンクリーンベンチ」を開発し、発表いたしました。発表当初の段階では、一般に普及しているクリーンベンチが『困いがあるため、使い勝手が悪い』というユーザーの潜在的な声に対応した“困いのないクリーンベンチ”を開発したものでした。しかしこの発表後、展示会への出展や学会発表等を通じ、『大規模なクリーンルームから必要部分だけをクリーンにするミニエンバイロメントに、この技術が応用できないか?』とのユーザーの声が数多く寄せられたため、クリーンベンチの枠を超えたミニエンバイロメント対応機器の開発を進めております。

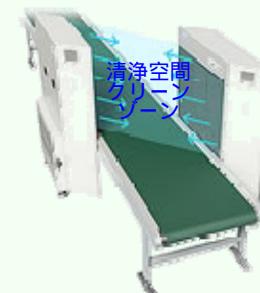
今回、その一環から、**斜流オープンクリーンゾーン生成装置「ダイゴコーチ」**及び**横連続クリーンゾーン生成装置「連続コーチ」**、**全面クリーンゾーン生成装置「フロアコーチ」**の3機種を開発し、オープンクリーンシステム「KOACH(コーチ)」の製品ランナップの拡充を行い、クリーンビジネスへの本格的参入に備えました。

斜流オープンクリーンゾーン生成装置「ダイゴコーチ」

『ラインの一部にクリーンゾーンを作り、そこにオペレーターを立たせたい』『KOACHを導入したいが人が配置できなくなる』そのような声に応えたのが「ダイゴコーチ」です。

斜めに吹き出す気流がクリーンゾーンを形成するので、人を配置しても安定した清浄度を保つことができます。(特許出願中)

柱等の障害物があっても「KOACH」を正対させられない場合の処置としてもダイゴコーチは有効です。



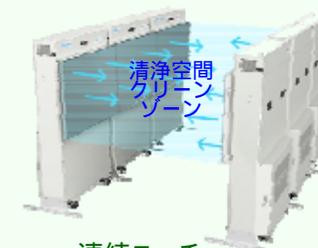
ダイゴコーチ
「KOACH D 900-H」

横連続クリーンゾーン生成装置「連続コーチ」

単品ユニットからはじまった「KOACH」に、よりワイドなクリーンゾーンを要望する声に応えて開発されたのが「連続コーチ」です。

従来どうしても生じてしまっていたユニットとユニットの間の清浄度の低下を、新たな技術の導入で防ぐことができます。(特許出願中)

この技術で、「KOACH」はいくらでも連続して開口面を拡張することが可能となります。



連続コーチ
「KOACH R 1050-H」

全面クリーンゾーン生成装置「フローコーチ」

連続コーチの技術を応用し、かつ送風機を背面に移動することにより、床面までの全面クリーン化を可能にしました。

複数台を組み合わせて対向させれば、オープンクリーンブースになり、高さ調整台を利用すればどの高さからでもクリーンゾーンの形成が可能です。

広い室内の一角だけクリーン化したい場合や、大きなクリーンルーム内の一部だけをより高い清浄度にしたい場合に適しています。

4組をセットした場合は、清浄空間（開口面間距離）を最大4,000mmまで伸ばすことができます。



フローコーチ
「KOACH F 1050-H」

全自動内視鏡洗浄消毒装置「鏡内侍」の拡販のために、新モデルを開発しました

～富士フィルム社製内視鏡対応の新モデルを開発～

当社は、世界初の「自動ブラッシング機能」と「電解水生成装置」を搭載した全自動内視鏡洗浄消毒装置「鏡内侍（かがみないし）」を開発し、平成18年より販売を開始しました。

同装置は、ガイドライン^{*3}に則した洗浄消毒を全自動で行えるもので、『確実に洗浄消毒でき、安全性にも優れる』、『短時間の洗浄を可能にする自動ブラッシング機能を搭載』、『強酸性・強アルカリ性電解水が洗浄消毒コストを削減する』等の特長によって、大変ご好評をいただいております。しかしながら、同装置はオリンパスメディカルシステムズ社製のみに対応であったため、医療機関からのご要望もあり、富士フィルム社製内視鏡への対応と改良を施した新製品「鏡内侍 KOM-ED-F1」の開発を行いました。

*3 消化器内視鏡の洗浄・消毒マルチソサエティガイドライン（第1版）

<新たに追加した機能・特長>

- ・富士フィルム社製内視鏡に対応
- ・電解水の生成量を1.5倍にし、洗浄消毒の待ち時間を短縮
- ・副送水（ウォータージェット）付き内視鏡にも対応

新機種種の市場投入を機会に「鏡内侍」販売全体の底上げを図って参ります。



全自動内視鏡洗浄消毒装置
「鏡内侍 KOM-ED-F1」
医療機器製造販売承認
22200BZX00738000
(平成22年8月4日承認)

トピックス

Clean, Health, Safety

フィット性測定サービスを体験された方が10万人を超えました
～マスクは“フィットが重要”という考え方が、着実に拡大～

マスクは、いくら高性能なフィルターを使用していても、顔とマスクの間にすき間が生じると粉じんやウイルスなどの有害な物質がマスク内に侵入してくる危険性があります。

当社は早くから、マスクの漏れ込みリスクに着目し、長年にわたってフィット性を向上させる素材開発、技術開発、製品開発等の“フィットを追求した製品づくり”を続けてまいりました。

それに加え当社では、「マスクフィッティングテスター」というマスクの漏れ率を測定する装置を活用した“フィットの重要性をユーザー様に直接伝える啓発活動（フィット性測定サービス）”を行っております。

当社の営業マンは、この測定装置をユーザー様の作業現場に持ち込み、作業員や医療従事者個々のマスクの漏れ率を測定します。そして、営業マンは実測したデータを示しながら、フィット性が高く自分の顔に合ったマスクを選んだ上で、適切に着用しなければ、マスクは漏れてしまうことをマスク着用者全員に理解していただく活動を続けております。

当社が平成19年から平成22年6月30日までに測定した件数は、9,236件。測定者は10万人を超えました。この漏れ率の測定がユーザー様の安全衛生や感染対策教育のプログラムに組み込まれ、当社の営業マンが教育の講師として数多く招かれています。

フィット性の高い当社製マスクがあらためて評価され、シェア拡大が進むよう、これからも“フィットを追求した製品づくり”と“フィットの重要性を伝える活動”を続けてまいります。

マスクフィッティングテスターMT-01



外気とマスク内との粉じん濃度を比較して、漏れ率として装着状態の良否を表示する測定器（柴田科学社製）



測定者・件数（平成22年6月30日現在）		
産業分野	医療分野	合計
78,988人	21,509人	100,497人
5,874件	3,362件	9,236件

医療機関に感染対策用マスクの使い分けを提案しております

～3種類の感染症対策用マスク「ハイラックシリーズ（350型、うつさんぞ、かからんぞ）」～

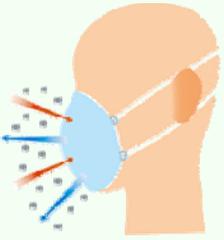
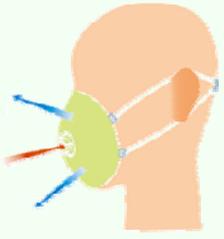
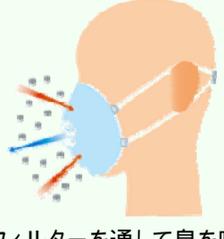
インフルエンザなどの感染症の拡大を防ぐには、感染していない人がマスクを着用して、ウイルスや細菌等から鼻やのどを守ることに加え、感染症患者もしくは疑わしい人自らがマスクを着用してウイルスや細菌等の拡散を防ぐことが欠かせません。

当社は、医療機関でもそのフィット性能が高く評価されているN95レスピレーター*「サカサ式ハイラック350型」の技術を応用した感染症患者をミニマム隔離する「ハイラックうつさんぞ」と健康な人が感染を予防する「ハイラックかからんぞ」の製品化を行いました。

*空気感染予防対策として用いられるマスク

新型インフルエンザの強毒性化も懸念されている現在、当社は医療機関に対して、マスクフィッティング測定サービスを活用した“フィットの重要性”を伝える活動とともに、使用目的や着用対象者に合わせた3種類のマスクの使い分けを提案し、備蓄を奨めております。

なお、当社製品の優先購入（100%、30%割引）ができる株主優待では、この3種類のマスクの中から、自由に組み合わせて注文ができる制度に今年から改めております。

品名	種別・特長	弁の有無	呼吸の方法 (空気の流れ)
 ハイラック 350型	<標準型> ・ウイルス、細菌の侵入や拡散を防ぐ ・感染症に感染しない、感染させない、両方に使用できる標準型 ・N95レスピレーターとして、N95(米国NIOSH)規格とDS2(厚生労働省国家検定)規格に合格 (うつさんぞ、かからんぞも同等のフィルター性能有す)	なし	 フィルターを通して息を吸う フィルターを通して息を吐く
 ハイラック うつさんぞ	<感染症患者専用> ・感染症患者もしくは疑わしい方が、健康な人に感染させない時に使用 ・ウイルス、細菌の拡散を防ぐ ・吐く息に含まれるウイルスや細菌等をフィルターでろ過し、外に出さない ・吸気口から息を吸う構造のため、マスク装着時の患者の呼吸負担を軽くする (注)健康な人が感染予防用として使用することは不可	吸気弁付き	 吸気口(弁)から息を吸う フィルターを通して息を吐く
 ハイラック かからんぞ	<健康な人用> ・ウイルス、細菌等から、鼻やのどを守る ・大気中に存在するウイルス、細菌等をフィルターでろ過し、侵入させない ・排気口から息を吐く構造で、呼吸が楽にできる ・感染症の予防や感染した患者を看護する際に使用 (注)感染症患者もしくは疑わしい方が、健康な人に感染させないために使用することは不可	排気弁付き	 フィルターを通して息を吸う 排気口(弁)から息を吐く

研究開発

Clean, Health, Safety

当社の研究開発は、当社の基本方針である『クリーン,ヘルス,セーフティ』の追求に対し、自由で独創的な技術開発とその多面的応用を目指して活動しております。

これまで当社は、工場や建設現場等で働く人々の安全と健康を守る保護具や作業環境改善機器として『クリーン,ヘルス,セーフティ』の研究開発を行ってまいりましたが、現在はそれらで培った基礎的技術を発展・拡大させ、半導体や医薬品の製造工程等におけるクリーンルームに代わる空気清浄設備・機器としての『Clean』、医療分野における感染リスク低減のため等の『Health』、これまでの労働安全衛生分野における健康と作業環境改善設備の『Safety』の3つの分野での事業展開と研究開発を推進しています。

当第2四半期累計期間に開発した主なものは、電動ファン付き呼吸用保護具「プレスリンクブロウマスク」のバージョンアップ製品、富士フィルム社製内視鏡対応全自動内視鏡洗浄消毒装置「鏡内侍」及びオープンクリーンシステム「KOACH」シリーズ3機種です。なお、同期間末の研究開発の担当人員は70名、同期間の研究開発費は総額2億37百万円です。



これまでは、工場や建設現場等で働く人々の安全と健康を守る保護具や作業環境改善機器・設備の研究開発が中心

貸借対照表

科目	H21年 6月末	H22年 6月末	前年比 増減額	科目	H21年 6月末	H22年 6月末	前年比 増減額
流動資産	6,968	5,574	1,393	負債	8,950	7,345	1,605
現金及び預金	1,716	1,270	445	流動負債	5,682	4,717	965
受取手形及び売掛金	3,257	2,557	700	固定負債	3,268	2,628	640
商品及び製品	808	614	193	純資産	7,682	7,727	45
仕掛品及び原材料、 貯蔵品	1,000	969	30	株主資本	7,607	7,673	66
その他の流動資産	189	164	24	資本金	674	674	0
貸倒引当金	4	3	1	資本剰余金	528	528	0
固定資産	9,665	9,498	166	利益剰余金	6,446	6,512	66
有形固定資産	8,274	8,132	141	自己株式	41	41	0
無形固定資産	22	27	4	評価・換算差額等	36	13	23
投資その他の資産	1,368	1,338	29	新株予約権	38	40	1
資産合計	16,633	15,072	1,560	負債・純資産合計	16,633	15,072	1,560

損益計算書

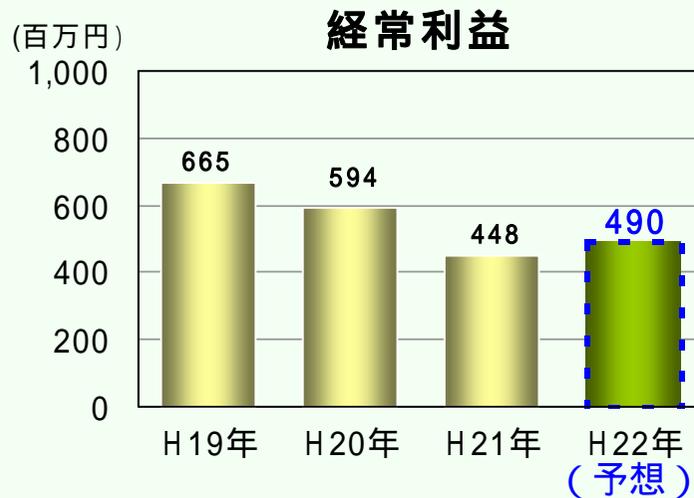
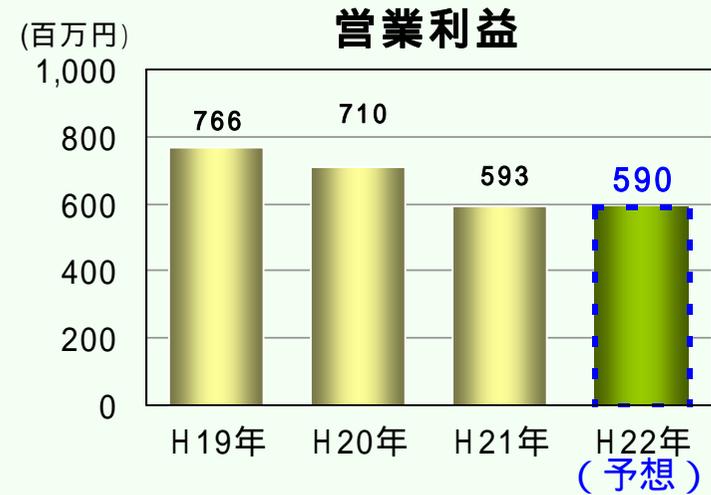
科 目	前第2四半期累計期間 平成21年1月1日から 平成21年6月30日まで	当第2四半期累計期間 平成22年1月1日から 平成22年6月30日まで	増 減
売 上 高	4,072	3,376	695
売上原価	2,185	1,773	412
売上総利益	1,886	1,603	283
販売費及び一般管理費	1,490	1,322	168
営業利益	396	281	115
営業外収益	14	13	1
受取利息	0	0	0
その他	13	13	0
営業外費用	102	70	31
支払利息	51	44	6
その他	50	26	24
経常利益	308	223	85
特別利益	31	12	19
特別損失	9	17	8
税引前四半期純利益	331	218	113
法人税、住民税及び事業税	203	36	167
法人税等調整額	52	76	129
四半期純利益	181	105	75

キャッシュ・フロー計算書

科 目	前第2四半期累計期間 平成21年1月1日から 平成21年6月30日まで	当第2四半期累計期間 平成22年1月1日から 平成22年6月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	381	721
投資活動によるキャッシュ・フロー	134	63
財務活動によるキャッシュ・フロー	148	1,053
現金及び現金同等物に係る換算差額		
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	98	395
現金及び現金同等物の期首残高	1,617	1,666
現金及び現金同等物の期末残高	1,716	1,270

平成22年12月期の業績予想

平成21年12月期の業績予想 (百万円未満の端数切り捨て)



平成22年12月期の通期業績予想につきましては、新分野の営業が今後スタートする予定であります、業績見通しには不確実な要素が多いことから、期初の計画を変更しておりません。

本資料の平成22年12月期業績予想数値及び将来に関する事項につきましては、平成22年12月期第2四半期決算発表日(平成22年8月5日)現在において、入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る平成22年12月期第2四半期決算発表日現在における仮定を前提としております。今後、様々な要因によって、異なる結果となる可能性があります。

本資料に関するお問い合わせ先

興研株式会社
広報・IR室

TEL 03-5276-1932
FAX 03-5276-6530
E-メール ir@koken-ltd.co.jp
ホームページ <http://www.koken-ltd.co.jp>